

## 平成 29 年度 医療救護所訓練（練馬東中学校）の課題と対応案

12月10日（日）の練馬東中学校における医療救護所訓練後、参加関係者にアンケートを実施した。その回答を基に問題点や課題を抽出し、対応案を以下に列挙する。

問題点・課題	対応案
<b>1 開催時期や時間帯</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>いつ発災するか分からないということを考えると、季節や時間帯を変えて訓練を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏期や夕方の時間帯など可能な限り様々な想定 of 訓練を検討する。</li> </ul>
<b>2 レイアウト</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>軽症から重・中等症へ急変する患者がいることを想定すると学校内の移動距離が長い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の構造上または避難場所との兼ね合いでレイアウトを決める。今後の避難拠点運営連絡会等での検討が必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>軽症者処置場所で、患者を観察してからトリアージに移るようにしていたが、どうしても来た順番にトリアージを行なうことになってしまう。重症になりかけている人が後回しになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災時は、ビブスの症状表示ではなく、傷病者を観察することになる。当然のことながら、トリアージを繰り返し行い、治療の優先順位を決めていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1次トリアージ（振分け）後、歩行不可能者が昇降口の階段を上るレイアウトになっていた。患者を抱き上げて、ストレッチャー等に乘せる訓練も必要か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校はバリアフリー化が進んでいないところも多い。学校ごとに対応を検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>重症者を集めるには、保健室では狭すぎると感じた。もっと広い場所に変更してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災による建物の状況や負傷者の数などにより、より適した場所を選んでいく。</li> </ul>
<b>3 用品関連</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中央昇降口に毛布が2枚しかなかったため、少なくとも各ストレッチャーにつき2枚ずつ、また、トリアージ待ちの区民用に数枚欲しい。特に冬場だと、重傷者は体温が下がりがちになるので必要だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回以降の冬期訓練では、毛布等を用意する。</li> </ul>

問題点・課題	対応案
<ul style="list-style-type: none"> <li>START 法トリアージのマニュアルを見ながらでないとトリアージができないので、マニュアルの紙を水に濡れても大丈夫なようにラミネート加工して数枚用意してほしい。また、それを壁に貼ることも有用だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一次、二次トリアージの各場所に拡大した START 法トリアージのマニュアルを用意する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>本番の時に誰がリーダーなのか、物品がどこに保管され、誰が鍵を持っているのか知らないことは不安。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このたび作成した練馬区医療救護カレンダー2018 のレイアウト図や参集簿などを活用していただくことを推奨していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>トリアージ後に、ストレッチャーに乗せて搬送したが、なかなかストレッチャーが戻らなかった。その間の時間に何ができるのかが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練を通じて、また繰り返すことで課題の解決を検討していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今回使用したのは口腔診査セットだけだが、懐中電灯とか照明器具や口腔内消毒薬、ガーゼ etc…があると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>備蓄済みの懐中電灯等を含め、活用を検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>血圧計や聴診器は備蓄されているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>備蓄していない。血圧計等については、配備する方向で検討する。</li> </ul>

問題点・課題	対応案
<b>4 医療救護所運営</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担（医師・看護師・薬剤師などのスタッフ同士）がもう少し明確になった方が良い。特に、次々と患者が搬送されてくる中で、患者の状態を記載したり、処置内容のメモなど手が空いている人達でどんどん行えた方が良かったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区要員や地域の方々に記入補助を行ってもらえるよう一層指示していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重・中等症のトリアージについて、医師、歯科医師、看護師、記入係の4人1組編成でトリアージを行なうとよいのではないか。また、ある程度のマニュアルがあるとよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた人員で運営するためには、医療職等の確保が重要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・搬送する流れが出来ておらず、診察終了後の患者がその場でたまってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負傷者は、手当てを受けた後、再度体育館に戻っていただくことを徹底する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の打ち合わせで、トリアージについて確認したが、どこに記載するのか分からず混乱した。タグおよびカルテの記入マニュアルが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トリアージタグの記入方法についても引き続き啓発していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大多数の緑だけでもトリアージタグだけで対応する方がよいのではと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用の中で検証していく。</li> </ul>
<b>5 その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度に多職種の人たちが集まって訓練するのは良いと思うが、知識向上のための講習をもっと日々から行うと良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会を捉えて、講習等実施するよう検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の持場も見学できれば良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち場の途中交代や他校訓練の見学などをお願いする。</li> </ul>

